

ろくろ体験の作品を矢鋪窯に受け取りに行き、参加者の皆さんに配布しました！  
〈白磁のお茶碗、手に取って見るときれいな曲線に驚きと心ウキウキ〉

新しい年になりました。今年もいろんなことにチャレンジしながら、まちづくりの歩みを進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年(2023)の11月にろくろ体験で制作された白磁のお茶碗が焼き上がった、と講師をお願いした現代の名工 矢鋪 與左衛門(やしき よざえもん)さんから連絡がありました。

どんな具合に焼き上がったのだろうか、と胸の高まりを感じながら2月2日(金)に矢鋪名工の所に受け取りに行きました。それでは、山の中腹にある矢鋪窯(有田町岳)までご案内します。



▲有田町庁舎(旧西有田町舎)裏の県道をひたすら直進します。曲がりくねった道も直進あるのみ



▲緩やかな坂道を登ると、この地区の守り神 大権現神社の小さなお社、横に消防小屋が見えます



▲消防小屋から矢鋪窯の看板が近くに見えます。右に曲がって進みます





▲山の中腹に矢鋪窯があって棚田の石積み越しに見えます。右側には有田の町並が展望できます



丁度、矢鋪名工がろくろ体験の作品を表面がきれいになるよう研磨されていました。自分が制作したお茶碗とは思えない出来栄えには、こうした名工の職人魂とやさしさがあります。感謝！

焼き上がった作品を受け取り、慎重に運転して開成公民館に運び込みましたが、気疲れしました。ところで、大人の皆さんには個別に、また小学生の参加者には子ども会の江原会長さんから開成小学校などを通じて配布日時を連絡していました。2月4日(日)、9時から16時まで開成公民館の会議室で配布します、と。皆さん、ご自分の作品がどうなったのか、きっと驚かれるだろうなあ、と渡す方も興奮します。それでは、当日の様子をご覧ください。





小学生の作品です。絵付体験の湯飲み、ろくろ体験の茶碗をセットにして並べておきました



▲ 作品ごとに番号と名前が書かれていて、割れないよう丁寧に包装されています▲



▲大人の作品です。ろくろ体験の茶碗が包装されて番号と名前が書かれています▲

会議室の左右の机に配布しやすいよう大人と小学生の作品を並べて置きました。お名前を聞いてから作品を渡していきます。早く見たい方は包装を解き、お茶碗を見て思わず「ワァ！」と感嘆の声。どなたも作品を食い入るように見つめる表情は嬉しさと喜びにあふれ、こちらも笑顔になります。この瞬間の皆さんの表情を矢鋪名工に是非見てもらいたいなあ、と思いました。ろくろ体験は、モノを創る喜びとともに出来上がった作品に感動するという二重のズキズキわくわくがあります。



いい体験ができてよかった。素敵なお茶碗！



滅多にできない体験。ピカピカきれいだ





夫婦でいい体験ができ、素敵な作品に感謝



あれ？随分小さくなったけど愛着が湧くなあ

ところで、出来上がった作品を見て、誰もが言われることがあります。「こんなにきれいな白磁の茶碗初めて見た」、「思ったより小さかったので、こんなに縮むのかと驚いた」、「端正な美しさに見とれてしまった。使うのがもったいない」、「自分が作ったものとは思えない出来栄えでびっくりした」など。矢鋪名工にろくろ体験の作品がどういう工程でこんなに見事な焼き物になるのかお尋ねしました。その回答ですが、「ろくろ体験の作品が焼き物になるまでの工程」(注、末尾参照)をご覧ください。一点一点丁寧に仕上げられたことに感謝の念で一杯です。ありがとうございました。



《受け取りに見えた方々からちょっと一言》

○ 60歳代男性

初めての体験で、ろくろ回しが難しかった。手助けを受け何とか制作完了、出来具合が心配だったが、作品を見て丁寧な仕上げで自分が作ったものとは思えません。大切に愛用します。

○ 小学生(男子)

いい経験ができてよかったなあと思った。ピカピカできれいに光る茶碗、思い出に残る体験教室でした。先生方、ありがとう。

○ 60歳代女性

初めてのろくろ体験、丁寧なご指導で緊張しながらも楽しくできました。あまりの出来栄えに感動。そして、体験後の数々の工程を知り、「これは私が」とはとても言えない。大切にしていきます。

伝統工芸なのでこういう体験があると大切に繋いでいきたいとの思いが広がっていくでしょう。

○ 60歳代男性

初めての体験でしたがとても楽しかった。緊張もしたが素敵な経験をありがとうございました。





## ろくろ体験の作品が焼き物になるまでの工程

- ① 乾燥後の作品は、全ての面がざらざらになっています。このため、内側を布で水拭きすると、表面が滑らかになります。次に、内側に鉛筆で薄く名前を書き入れます。
- ② 内側のカーブに合わせて外側をろくろで削ります。この作業で全体が薄くなり、削った後に表面がきれいになるよう水拭きします。
- ③ 茶碗のふちがきれいになるよう水拭きします。
- ④ 作品が本人のものなのかチェックします。やり方は、体験時に書かれた名札と①で書き入れた名前が合えば、本人のものとして名札を作品に添えて置きます。
- ⑤ 高台の内側に名前を刻みます。
- ⑥ 二日間かけて900度で素焼きします。
- ⑦ 素焼きは9～12時間後に表面が固くなっているので、全ての表面(外側、内側)を水拭きします。表面がザラザラしたままだと釉薬を塗るとはじいてしまうので、このザラザラがなくなるまで丁寧に水拭きします。
- ⑧ うわぐすり(長石、珪石、石灰を混合したもの)をかけ、釉薬仕上げを行います。
- ⑨ 本焼きは18～24時間(平均で22時間)で焼き上げます。900度～1200度で還元した後徐々に温度を上げていきます。  
素焼きで1割ほど収縮し、制作直後の生の状態からだと2割ほど収縮します。
- ⑩ 窯出。  
なお、作品の表面に黒点がぽつんと出ていれば、外からの付着や作品の内部から出ていることが原因ですが、黒点を削り焼き直します。



矢鋪窯のHP「ろくろ体験のこだわり」より抜粋  
せっかく陶芸体験をされるなら、実際に使いたいと思える器を作りたいですね。  
矢鋪與左衛門窯では、毎日使える、使いたくなる器づくり体験ができるようにご指導いたします。  
白くなめらかな表面、美しい曲線。  
ここで作った作品は、あなたの日常生活の宝物であり、なくてはならないものになることでしょう。  
実際に体験をされた人のことを思い、1点1点仕上げまで丁寧にいきます。